

明けましておめでとうございます。

新たな一年の門出を皆さまとともに迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。また、昨年から続く新型コロナウイルス感染症につきまして、市民の皆さまにはその対策と予防に一方ならぬ協力をいただき、厚くお礼申し上げますとともに、この災禍の一刻も早い終息を祈念するものでございます。

さて、このコロナ禍は人口が集中した都市部のリスクを浮き彫りにし、私たちの社会を見つめ直すきっかけにもなりました。内閣府が行った意識調査でも、東京、名古屋、大阪の20代、30代の若者の20%以上が、「地方移住への関心が高まった」と回答したそうです。利便性や快適性、経済効率を追求してきた都市生活に不安や行き詰まりを感じた人々が、自然に囲まれ、伝統や文化を大切にしている地方の生活に魅力を感じ始めたのかもしれない。かねてより唱えられてきた地方創生の流れが新たな局面を迎える可能性も感じております。

こうした流れの中、本市は重要施策として、読書率の向上と健康寿命の延伸を掲げ、昨年「土岐ブックフェス2020」の開催や、オリジナル体操の「ときげんき体操」の制作などを行ってまいりました。読書を通じて文化の担い手である若い世代を育てるとともに、全世代にわたる健康増進を図ることで、暮らしの質を向上させ、豊かな地域を育む土台(人)を作り上げたいという思いのこもった取り組みであります。

本年も「読書が育てるまちの未来」を理念に掲げ、読書推進計画に基づくさまざまな事業を展開するとともに、健康寿命の延伸につきましても「ときげんき体操」の普及をはじめ、「土岐市民の歯と口腔の健康づくり推進条例」に基づくフレイル予防など、これまでの活動を加速させたいと考えております。一方、ハード事業につきましても、子育て環境の充実を図るため「泉こども園」の整備を、土岐市や美濃焼の歴史を深掘りした知の拠点を整備するため「文化財保存活用拠点事業」を、また、市民の皆様の健康と命を守るための広域的な医療体制の整備を進めるなど、未来に向けた投資を果敢に行ってまいりたいと考えております。

年頭の ごあいさつ

皆さまのご支援、ご協力を心よりお願い申し上げますとともに、皆さまにとって実り多き一年となりますことを祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。

明けましておめでとうございます。日頃は、市議会に対しまして格別のご理解、ご協力を賜り、市議会を代表して厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が世界中に拡大し、国内でも多くの方が感染され、現在も憂慮すべき状況にあります。かつてない時代を迎え、新しい生活様式の中で、市民の皆さま方には、ご自身やご家族、周囲の方々を守るため、日常の活動の自粛、縮小にご協力いただき、感染拡大防止の徹底に努めていただいておりますことを感謝申し上げます。

市議会といたしましては、市が取り組むさまざまなコロナ対策を支援するとともに、感染に対する誹謗中傷、差別やいじめなどの国内における報道を受け、「新型コロナウイルス感染症による差別・いじめをなくすことに関するメッセージ」を発信いたしました。今後も、市民の皆さまとともに心をつなぐ取り組みをまいります。

また、近年は記録的な大雨による災害が広範囲に発生しており、昨年の7月豪雨では、各地に甚大な被害をもたらし、多くの方が被災され、犠牲となられました。土岐市内におきましても地すべりなどが発生し、市民の皆さまも大変不安に思われたことと思います。今後も懸念される降水量の増加や地震などの大規模災害に備え、市民の皆さまの生命と財産を守るため、防災・減災に向けた取り組みをより一層進めていくことが急務であると考えております。コロナ禍における、避難所運営など、新たな課題への取り組みも重要と考え、市議会といたしましても、市民の皆さまが安全安心に暮らせるまちづくりの推進のため市の施策を支援してまいります。

市議会では、より身近で開かれた議会を念頭に、これまで議会報告会に取り組みでまいりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年は実施を取りやめざるを得ませんでした。市民の皆さまと意見交換を行う大切な機会を失うこととなり大変残念でありましたが、本年は状況が好転し、開催が可能となりますことを願っております。

市議会は、今後も引き続き、さまざまな市政課題に対し、全力で取り組んでまいりますので、さらなるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、一刻も早いコロナ禍の終息を願うとともに、本年が市民の皆さまにとりまして、明るく希望に満ちた素晴らしい年となりますよう心からご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。



土岐市長
加藤 淳司



土岐市議会議長
山田 正和

